

紛争と融和における文化の役割

——国際関係史から学ぶ

[第15回全国大会公開シンポジウム]

紛争と融和における文化の役割

——江戸初期、冷戦期、現代

- はじめに ●都丸潤子 004
- 開会の辞 ●都丸潤子 007
- 挨拶と基調講演者紹介 ●小林文生 007
- [基調講演]
- 文化による紛争世界への対抗
——カント『永遠平和の為に』を平戸から読み直す ●平野健一郎 010
- [パネル・ディスカッション] 022
- [パネル] 田中孝彦 / 飯笹佐代子 / 福武慎太郎
- [基調講演者] 平野健一郎
- [モデレーター] 都丸潤子
- 【第一報告】冷戦と文化(交流)——冷戦の変容と文化的要因 ●田中孝彦 024
- 【第二報告】「文化多様性(cultural diversity)」をめぐる規範 / 文化の動向
●飯笹佐代子 034
- 【第三報告】東ティモールにおける非暴力の思想「ナヘベティ」 ●福武慎太郎 040
- 【質疑応答】 046

松井賢一元会長追悼フォーラム[鼎談]

「日本国際文化学会の設立15周年と今後の展望」

- 学会創設の功労者・松井賢一先生 ●熊田泰章 059
- 松井賢一先生と国際文化学 ●平野健一郎 062
- 日本国際文化学会創立のころ ●松居竜五 065

文化交流創成コーディネーター資格認定第2年度へ

- 2016年度ICCO短期集中セミナーを終えて ●松居竜五 068
- 異文化交流が生み出す若者の潜在能力と新しい価値
——バンガラデシュの先住民族の村から ●渡部清花 071
- 文化交流創成コーディネーター第一回短期集中セミナー
京都で文化を交流×創成する ●島田梨乃 080

- 行動論的アプローチから観光まちづくりを考える
——新たな「動詞抽出調査法」の提案を中心に ●齊藤 理 087
- 翻訳という言葉接触と新しい文章の試み
——明治期の文学翻訳の場合 ●齊藤美野 107
- イングランド内戦期議会派ニュースブックに見るネーション概念
——「グリーンフェルド・テーゼ」再考 ●小島 望 125

- 仏教用語によるキリスト教布教
——イエズス会の翻訳作業における葛藤、『ひですの経』第29章の例から
●エフライン・ピジャモール・エレロ 141
- 国際文化学としてのヒトの国際移動研究 ●加藤恵美 151

【研究動向】

- 国際関係における通訳翻訳の文化構築性と社会的役割 ●河原清志 162
- 太平洋問題調査会(IPR)研究の現在と今後の課題 ●飯森明子 168

- 村井吉敬・内海愛子・飯笹佐代子編著
『海境を越える人々——真珠とナマコとアラフラ海』 ●井上浩子 174

【会員の著書紹介】

- 178
- *小川忠『インドネシア イスラム大国の変貌——躍進がもたらす新たな危機』 *幸泉哲紀(Tetsunori Koizumi) *A Practitioner's Dozen: Thirteen Essays on the Conjoined Path of Learning and Practice for Zen Practitioners* *堀内弘司『中国で生きる和僑たち——そのトランスナショナルなビジネス・生活』 *松居竜五『南方熊楠——複眼の学問構想』 *李義準 / 李義平編・梅山秀幸訳『漢西野譚』

【博士論文紹介】

- 『中国・新疆ウイグル自治区におけるオアシス・ツーリズムを通じた社会の持続性に関する研究——企業型農家楽と家族型農家楽の事例を中心とした比較分析』 ●リシャラテ アビリム 181
- 『まど・みちおの詩と童謡の世界——表現の諸相を探る』 ●張 晟喜 183
- 『戦後日本からのパラグアイ移住にみる集団移住地社会形成と日本語 : 高知県幡多郡大正町「町ぐるみ」移住を中心に』 ●中山寛子 185

【国際文化学 私の3冊】

- イスラムのありようについて考える3冊 ●小川 忠 187

- 英文目次 193
- ABSTRACT 194
- 編集後記 197
- 日本国際文化学会2016年度事業報告 198
- 日本国際文化学会第15回全国大会プログラム 199
- 日本国際文化学会第16回全国大会開催予告 207
- 全国大会発表要項について 208
- 2017～2018年度役員及び各種委員一覧 211
- 日本国際文化学会規約 213
- 『インターカルチュラル: 日本国際文化学会年報』編集要項 215
- 『インターカルチュラル: 日本国際文化学会年報』投稿規定 217
- 平野健一郎賞規程 218